

令和5年度 全国学力・学習状況調査の三浦市の調査結果について

三浦市教育委員会

1 調査の概要と目的

令和5年4月に実施した「令和5年度全国学力・学習状況調査」の三浦市立小・中学校の調査結果の概要をお知らせします。

この調査は、児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために行われるものです。

なお、調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることも踏まえて、調査結果を報告するものです。

2 実施状況

(1) 調査の実施日 令和5年4月18日(火) ※中学校の英語「話すこと」調査は別日

(2) 調査の対象

小学校第6学年

中学校第3学年

(3) 実施項目

① 教科に関する調査(小学校:国語,算数 中学校:国語,数学,英語)

② 児童・生徒質問紙調査

(学習意欲や学習方法,生活,PCやタブレットなどのICT機器等に関する質問)

(4) 実施校数

小学校 8校

中学校 3校

(5) 実施人数

小学校 227名

中学校 233名

(6) その他

調査結果については、序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の結果については、市としては公表しません。

3 三浦市 小学校の結果

(1) 三浦市立小学校の教科別平均正答率

	国語	算数
三浦市（公立）	55%	55%
神奈川県（公立）	66%	63%
全国（公立）	67.2%	62.5%

※ 国立教育政策研究所の報告書には、平均正答率の±5%の範囲内は同程度であると表記されています。

(2) 各教科の概要（問題番号）

【国語】 〈おおむね、理解している内容〉：○ 〈課題がある内容〉：●

○送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができる。(1三(2)イ)

○文章の種類とその特徴について理解している。(1四)

○目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。(2一)

●図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(1二)

●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる(1三(1)ア)

●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(2四)

●日常よく使われる敬語を理解している。(3三)

【算数】 〈おおむね、理解している内容〉：○ 〈課題がある内容〉：●

○伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができる。(1(1))

○伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができる。(1(2))

○一の位が0の2位数について、乗法の計算をすることができる。(1(4))

○正方形の意味や性質について理解している。(2(2))

●伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係であることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる。(1(3))

●台形の意味や性質について理解している。(2(1))

●正三角形の意味や性質について理解している。(2(3))

●示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる。(3(2))

●示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できる。(4(3))

(3) 児童質問紙調査の結果概要

〈良好な項目〉(90%以上の児童が肯定的な回答をした項目など) ※「どちらかといえば」「ときどき」を含む

- 朝食を毎日食べていますか
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
- 人が困っているときは、進んで助けていますか
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- 友達関係に満足していますか
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか
- 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか
- 国語の勉強は大切だと思いますか
- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- 算数の勉強は大切だと思いますか
- 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- 英語の勉強は大切だと思いますか

〈課題がある項目〉

- 読書は好きですか

(4) 調査結果から分かること

教科別平均正答率については、全国（公立）と比べ、国語については低い傾向がありました。言葉の特徴や使い方に関する事項については、おおむね習得している傾向が見られました。一方、自分の考えを記述するなどの書く力に大きな課題が見られました。

算数についても、全国（公立）と比べ、低い傾向が見られました。算数的な知識や計算についてはおおむね理解している傾向が見られました。一方で、考えを記述するなどの思考力・判断力・表現力に課題が見られました。

質問紙では、生活習慣の定着や自分を肯定的にとらえる回答が高い傾向が見られました。また、「人が困っているときは、進んで助けている」や、「人の役に立つ人間になりたい」などの人間関係について肯定的な回答が多く見られました。一方で、読書をする時間については、課題が見られました。

4 三浦市 中学校の結果

(1) 三浦市立中学校の教科別平均正答率

	国語	数学	英語
三浦市（公立）	62%	44%	41%
神奈川県（公立）	70%	52%	50%
全国（公立）	69.8%	51.0%	45.6%

※ 国立教育政策研究所の報告書には、平均正答率の±5%の範囲内は同程度であると表記されています。

(2) 各教科の概要（問題番号）

【国語】〈おおむね、理解している内容〉：○ 〈課題がある内容〉：●

- 目的や場面に応じて質問する内容を検討することができる。(1一)
- 話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができる。(1三)
- 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができる。(1四)
- 事象や行為、心情を表す語句について理解している。(2一)
- 文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(2三)
- 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる。(3一)
- 文脈に即して漢字を正しく書くことができる。(3二)
- 具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(3三)
- 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(4三)

【数学】〈おおむね、理解している内容〉：○ 〈課題がある内容〉：●

- 数と整式の乗法の計算ができる。(2)
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。(6(1))
- 自然数の意味を理解している。(1)
- 結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができる。(6(3))
- 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。(7(2))
- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。(8(1))
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。(8(3))
- ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる。(9(1))
- 条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができる。(9(2))

【英語】 〈おおむね、理解している内容〉：○ 〈課題がある内容〉：●

○情報を正確に聞き取ることができる。(1 (1))

●日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができる。(3)

(3) 生徒質問紙調査の結果概要

〈良好な項目〉(90%以上の生徒が肯定的な回答をした項目) ※「どちらかといえば」「ときどき」を含む

○朝食を毎日食べていますか

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

○人の役に立つ人間になりたいと思いますか

○学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか

〈課題がある項目〉

●家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)

(4) 調査結果から分かること

教科別平均正答率については、全国(公立)と比べ、国語についてはやや低い傾向がありました。目的や場面に応じて質問する内容を検討するなどの、「話すこと・聞くこと」については一定程度習得できている傾向が見られました。一方、読み手の立場に立って文章を整えたり、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えたりするなどの「書くこと」や「読むこと」については課題が見られました。

数学についても、全国(公立)と比べ、やや低い傾向が見られました。知識・技能においては一定程度理解・習得している傾向が見られました。一方で、問題解決の方法を説明するなどの思考力・判断力・表現力には課題が見られました。記述問題については、無回答率が高い傾向にありました。

英語については、全国(公立)と比較してほぼ同程度です。

質問紙では、生活習慣の定着や自分を肯定的にとらえる回答が高い傾向が見られました。また、人の役に立つ人間になりたいなどの人間関係についても肯定的な回答が多く見られました。一方で、家で自分で計画を立てて勉強をすることについては、課題が見られました。

5 三浦市 教科調査および質問紙調査の傾向について

児童・生徒質問紙調査の結果と教科(国語、算数・数学、英語)の正答率との関係について、教科の正答率が高い傾向が見られた質問等を抜粋し掲載します(相関関係があったものであり、必ずしもそれが因果関係を示すものではありません)。

次のような回答をした児童・生徒に、教科の正答率が高い傾向が見られる。

・朝食を毎日食べること

- ・1日あたり、家庭で学習をしたり、読書をしたりする時間が長いこと
- ・これまでの授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していること
- ・これまでの授業で、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいること
- ・これまでの授業で、各教科で学んだことを生かし、自分の考えをまとめる活動を行っていること
- ・学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげていること

以上のように、基本的な生活習慣や学習習慣の確立、学びに向かう粘り強さ、自力解決等が児童・生徒の学ぶ意欲、学ぶ力の向上につながることが分かります。

一方、三浦市の小・中学生共通の課題も存在します。読書を全くしないと答えた児童・生徒は、約40%にのぼりました。

6 三浦市の今後の取組について

三浦市教育委員会では、三浦市の児童・生徒が確かな学力を身につけていくため、本調査の分析と考察を行いました。調査結果から学習に関する基礎基本の定着や基本的な生活習慣や学習習慣の確立に関して成果が見られるものの、考えを説明するなどの思考力・判断力・表現力の育成に関する課題が明らかとなりました。

今後も、分析結果や各校での取組状況を共有する場を設け、情報提供と共有化を行い、授業力向上に向けて研修の充実や校内研究の共有化を図ってまいります。さらに、各学校では調査該当学年（小6・中3）だけでなく、全学年において授業や学習状況の見直しを図り授業改善につなげていく取り組みを行ってまいります。

学力を含めた子どもたちの生きる力を向上させるためには、家庭・地域・学校・教育委員会の連携が重要であると考えています。三浦市の子どもたちが、よりよい生活習慣と学習習慣を身につけるために、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。